



說
解
記
紀
序



五卷之內

五卷之內

五卷之內

酒井松書



箕虫説

素堂

柴賣説

凡兆

閉關説

芭蕉

師説

許六

名阿段説

許六

出女説

木導

雜説

不知作者

愛釋説

万子

卍字藤説

朱廸

草薺説

露川

山芋説

吾仲

嘲霄惑説

毛純

風俗文選卷之四

○説類

箕虫説



五老井 許六選

素堂

○みぢぢしし。夢のおほいりなまをありけぬ。ちんちんと
 かくい。孝よけりる。とれ。びにけく。鬼の子なり。ん。
 清女がひまらさう形。や。鬼なり。と。誓ひ受を。父と。
 て。衆あつ。い。ひ。の。衆なり。ん。
 このま。い。乃。おぼ。い。か。い。を。能。あ。を。あ。け
 ぬ。松。ま。の。乃。の。義。か。る。る。ぬ。よ。公。電。中。は。花。野。を。な。ふ。衆
 子。を。縁。を。吐。よ。い。の。から。い。て。懸。の。子。は。死。と。
 兄。の。む。い。て。解。な。る。を。あ。り。け。ぬ。胡。蝶。々

花よいそしう。蜂と蜜をいそがむよ。花よいそしう。花よいそしう。
かきこぞ。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。
この甘しう。かきこぞ。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。
まじりて。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。
かきこぞ。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。
そこかきこぞ。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。

對表法。漢文が一系をあげて。漢文が一系をあげて。漢文が一系をあげて。
をいそがむ。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。
むしよ。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。
一味。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。
み。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。

から。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。
さく。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。
も。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。
一。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。
て。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。
感。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。
骸。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。花よいそしう。

又以男文字述古風

- 簑虫
- 寸心共空
- 白露其白
- 落人懸中
- 似寄居狀
- 青苔粧躬
- 一絲欲絶
- 無蛛工
- 從容侵雨

飄然乘風

栖鶴莫啄

家童禁叢

天許作隱

我憐称翁

脱蓑衣去

誰識其終

柴賣説

九兆

○柴賣お染うはり。小野。細河。くま。さ。る。隆。も。あ。れ。夫。貴。
 小原。と。花。屋。を。梅。が。細。く。わ。い。え。お。う。深。山。柴。を。た。が。庵。よ
 折。之。く。と。い。つ。る。を。め。る。あ。く。も。お。ま。を。た。し。ん。が。の。秦
 乃。毛。女。が。賢。い。も。似。を。河。陽。の。焦。子。が。仁。い。も。あ。い。も。唯。世。路
 里。乃。し。が。め。し。て。お。を。た。よ。わ。く。く。う。神。を。賣。る。更。に。山。よ。入
 く。う。神。を。推。る。既。に。し。小。野。せ。も。も。思。く。足。を。泥。も。深。

ま。と。も。白。し。さ。び。ぐ。ま。建。礼。門。院。乃。女。屠。阿。波。乃。典。侍。の。厨
 ぢ。じ。い。人。乃。名。お。あ。る。し。や。あ。は。ま。ひ。し。く。ら。に。香。お。あ。り
 衿。と。け。う。い。袴。し。て。二。布。を。あ。り。し。白。き。も。も。ほ。い。
 志。海。さ。は。い。し。白。き。お。あ。る。う。ひ。か。ま。い。じ。く。う。い。し。め。
 ひ。す。び。こ。も。幾。男。乃。ん。び。し。ぬ。と。ま。と。躑。躑。山。邊。を。載
 ち。葉。も。虎。杖。を。も。ご。ひ。り。ま。た。い。の。し。ば。く。た。い。ぬ
 乃。乃。は。い。一。里。二。里。と。は。く。ら。の。山。よ。あ。い。り。て。厨。の。や
 業。も。た。く。も。の。陰。も。と。睡。を。も。か。ま。ひ。漸。涼。の。所。し
 ち。り。げ。ま。か。ら。の。海。乃。る。り。と。も。ち。ぎ。り。て。大。路。小。路。よ。し。ぬ
 或。ら。お。海。し。て。内。を。と。り。ぬ。あ。ら。ひ。ち。出。は。し。市。よ。名。を
 志。海。づ。く。小。野。の。首。を。く。し。月。乃。々。を。つ。ま。い。お。い。ま

乃 務るの也。是を以て世に於ては、
此 魔界の心を怒り、溝途をばなましく生ずる事あり
道と。南華老仙の唯利害を彼知し、老若を以て
きて、閑よりむじし。老の樂を以て、人事を以て
乃 亦あり。彼く、他のや、業をさす、
其 效を以て、杜る所、門を、
なす、貪を富として、
の、禁戒となす。

師のほや、道と、
の、

師説

許六

い、
惑を解る、
そ、
と、
ありて、
の、
ら、
果、
る。

とうき継これを天下九家道といふなり。そ被りも厨子
 小談に忌火乃看教をくけてあらう。そ道を脱て家
 近めくともわつた一圓乃ら道よりて真此死のり
 らんは此先所甚難弱い。そ心たお甲乙ら世帯く
 及を受がらひを解。これたたお家道といふた。も
 今乃いん人となりふ。一中。此れ教む人もつて。見
 教ずらう乃人真似す。おアをあやう。海ひひわ
 惑いよふ人多うをさくも。人。そ心たあつて。いんめし。
 所よ志づいて惑を解。所脱よりて人を自己乃
 其意を究はるを志くも。先師あまうそて。す。を
 二。そ乃。忌火をへおまとゆ。乃。後免し。ま。いん。玉中を。ひ

やらぢり。そ。道。を。継。す。哲。乃。印。人。は。を。か。う。へ。て。家。一。う
 血脈道脱あまし。そ。は。先。乃。は。家。道。よ。か。ど。い。ま。神。真。死
 左流あるのをさくも。そ。人。の。細。滑。を。さ。う。ん。と。わ。わ。た。
 先其所乃ら。いん。を。ん。べ。ー。其。乃。細。滑。一。人。あ。れ。を。
 一。病。す。べ。て。道。よ。迷。り。ひ。こ。神。言。下。よ。惑。を。解。て。あ。う。也
 く。海。く。を。さ。く。も。ぬ。あ。か。わ。茲。よ。中。子。孟。遠。第。よ。志。の
 び。いて。乃。を。さ。く。も。一。家。友。務。能。今。下。よ。つ。ま。づ。脱。
 沈。痾。先。衰。乃。原。よ。か。や。と。そ。そ。ひ。ま。と。あ。る。の。務。也。
 今。う。ま。ら。ぬ。の。所。脱。得。つ。く。送。る。か。た。う。も。余。が。細。滑。の
 そ。ら。た。り。を。か。て。衆。が。い。ん。い。乃。そ。ら。た。り。の。よ。ま。よ
 予。が。務。能。眼。の。病。乃。所。あ。う。が。ま。か。り。わ。り。ふ。家

かゝるものありしに、

名阿段説

許六

このたのしきあつきて、文字の指と指しつゝを社
を新ぐる福といふは神ど。通字ありて己乃己
ともいふしやうき神になつても事ハ名まじくや。
名固のあはせなり。一由もあるやう。さ神ハ味ハ插
ともいふもせは、承補ハ飯をもいふを名なり。之
ありては、各名固ハあつてもや。さるを今乃人名と
天現ハかゝるつぎと申しつゝとおもつ。つとていふ
きふ右をあつてと申。名目と名目許さける。果

乃くつと申すも、呼へし人といふんまゝ。教識とハ顯密の名。
鉄巖とはめいをいふ。禅師乃号。大いの一流一流の
名目あるが、あつて乃人の名は、中。深お心なり。
歌を教へて、家子乃名と。白歯を以てくを名を
定む。つとて、あ字のつら。ゆゑ、心をよくめ。今本
端乃類も。御さくあ記。一突志計もあまの。海ハ
カ。小坊と阿段よく系をくむ。平ガ湯とをむ。平
おまが、撥故子等。一を神ハ。名は、今説は、い
かまじくす。ま。かくは、い。

出女説

本導

傾城傾城。唐人乃つまききる名うして。白牡丹が
 神乃女々。赤い乃やうきなるべし。首の赤い類あ
 ずい。かぞふよい由なるん。ましく乃若同。当世の酒落
 柄柄。千瓢。白人中。美乃を分い。大ひひ。了種。わわわ。
 位階のこま。つ。合派のおあなるべし。ぞんじがくも
 一。執権よゆるさ。神。昔人のか。わ。よ。は。は。は。
 一。也。か。子。細。さ。て。お。ほ。く。い。ふ。さ。こ。小。あ。さ。わ。夜。よ。道。人
 が。己。お。遊。君。あ。ち。て。流。よ。人。乃。魂。と。さ。う。い。ん。さ。い。ん。法
 も。ん。く。び。ま。し。て。弁。も。む。程。の。ま。ま。も。な。し。ぞ。も。お。か。い。

酒乃。こ。こ。能。進。退。の。や。ま。れ。り。の。つ。ま。は。紅。光。同。塵。乃
 染。を。あ。う。り。一。意。照。中。一。乃。お。女。さ。く。い。な。わ。あ。わ。信。生
 涯。の。あ。わ。さ。ま。と。る。ふ。地。を。さ。う。一。信。旅。あ。乃。号。と。う。

酒乃。こ。こ。能。進。退。の。や。ま。れ。り。の。つ。ま。は。紅。光。同。塵。乃
 染。を。あ。う。り。一。意。照。中。一。乃。お。女。さ。く。い。な。わ。あ。わ。信。生
 涯。の。あ。わ。さ。ま。と。る。ふ。地。を。さ。う。一。信。旅。あ。乃。号。と。う。
 さ。尖。女。乃。花。の。さ。く。い。も。あ。う。で。江。湖。行。脚。乃。独
 信。と。あ。さ。い。い。い。あ。う。い。約。立。乃。旅。人。と。送。つ。打。差
 姿。と。ね。ぎ。控。く。い。幕。と。飛。一。都。や。ら。が。お。い。ひ。う
 き。て。い。わ。や。え。衣。引。つ。ま。い。赤。麻。の。着。れ。さ。め。時。を。腰。の
 刺。を。相。着。と。お。り。へ。り。さ。る。是。野。の。漢。服。よ。す。り。あ。う。
 通。乃。乃。さ。よ。え。な。ま。を。か。し。ん。や。う。く。さ。乃。日。さ。う。こ。神
 や。よ。の。や。く。以。見。世。乃。心。面。よ。座。と。志。め。泊。り。他。り。ん。え
 女。肌。ぬ。さ。乃。大。き。い。首。飾。の。あ。う。り。わ。燕。丸。舞。あ。も

多氣氣なる。目さし心北はせし海も。園れの流る代
うきて。おくくき。登瀛よ。東條の寄むびさげて
乃ち下れまじ。春あか。門の柱より。ち海をらる。かまが。一
世の勢ひなるべし。いなる人。やどるして。いも。われは。各
ま。んも。あ。く。び。と。お。め。く。ま。え。や。う。れ。傳。る。あ。る。は。ま。ま。
よ。し。き。登。り。て。よ。た。な。が。く。ま。ら。同。心。乃。舞。の。お。つ。け
ひ。神。女。乃。手。拍。子。は。輕。愔。の。お。ま。を。上。く。あ。ま。
ま。く。く。く。油。火。か。よ。ま。と。く。拍。を。の。は。あ。わ。る。あ。ま。
か。く。べ。し。青。夫。は。淺。は。子。履。を。り。づ。る。急。用。よ。は。赤。脚
て。飛。脚。油。を。踏。り。金。盞。も。じ。り。よ。か。も。果。担。女。照。子。か
う。ま。と。れ。ま。も。く。丸。沙。は。も。た。り。と。あ。く。の。楓。橋。ん

月夜をのり。乃吟も。け君もあはぬ。くみとれ。は
お泊。岩か。さぬ。君も。な。く。ま。と。て。今。い。ま。も。う。あ。い。の
か。く。ぬ。伊。勢。路。乃。彩。舞。は。あ。ら。め。が。ら。ま。た。大。津。草。は
ま。が。う。う。は。い。あ。べ。し。名。指。乃。ま。づ。ら。なる。ひ。が。づ。け。と
か。く。よ。ら。と。果。く。鼻。乃。下。の。燦。字。も。ま。く。中。綿。不
乃。小。車。れ。ま。も。さ。び。く。ま。着。て。あ。内。呂。の。大。新。は。ま。
袋。ま。ま。ま。も。信。し。り。田。冷。は。は。な。ま。び。く。長。四。ハ
勤。も。せ。び。さ。神。と。あ。し。神。な。る。く。よ。ん。い。ら。く。な。ら。ひ。
夜。更。高。く。ま。づ。か。ら。れ。お。ま。道。より。志。の。び。や。お。書。流
床。乃。小。陸。も。あ。ま。て。神。乃。陽。離。も。ま。づ。ら。なる。か。く。て
大。股。も。折。ら。れ。夜。よ。つ。夜。入。枕。と。あ。く。よ。は。智。の。ま。り。れ。ま。ま

と定め。恰分の加増ハ赤は家をそこが家。如皆終つてあま
む。古述もやむよはたりをて。げりの行来何れなるん
有ハ普賢はふりもなわを先例もあまじ。今
々すう。此遠いありて。果ハ如龍昇ノ妻よこわ
瘦子あま。老控間隙乃るよ。懸く。生涯と終る。
あまもとでもえ来なり。縛乃の地獄までいあまじと。
お女乃地獄の沙汰とまきん。そまハ方地獄の門く。
そむち。又あつ終なりぬべし。

雑説

不知作者

(一)人物會歎ハそ人相會歎の粉由有する。西う。信也。
山川あま。いそ山川あま。ものま。終る。ふよ。そあ。信。
物皆をれ。い。の。み。乃。終。なる。所。よ。あ。終。果。る。も。え
た。る。り。な。る。べし。響。は。あ。の。女。為。よ。傷。き。仲。尼。ハ
仁。義。よ。そ。あ。る。在。老。ハ。富。貴。よ。あ。あ。ま。神。ハ。他。ハ。靈。異。ハ
倒。る。他。黄。叔。齊。ハ。賢。ハ。ま。あ。ま。楠。正。成。ハ。忠。ハ。傷。る。
火。ハ。あ。つ。き。よ。た。少。終。あ。い。や。り。な。る。ふ。あ。る。砂。粒
ハ。あ。ま。れ。よ。あ。終。野。老。ハ。お。ぐ。ま。よ。あ。あ。る。長。ハ。あ。が。れ。よ
る。あ。ま。終。る。こ。ら。う。終。よ。傷。る。さ。終。ハ。倉。を。燃。ふ。人
々。痒。を。か。く。ふ。よ。あ。れ。み。貪。を。ら。う。び。ま。れ。ら。
盜。賊。の。終。る。り。と。ま。の。ふ。是。皆。私。漢。人。情。の。執。く

中いさしきくからずあさづきと。若くは風物も傷
ゆ一人おはよ中よ。ありのちよ傷ま。家残る傳説よ
多ゆぬ。先物いせは物と。いふもあふ被て。は是處を
終る。その門業あやしの中よ。あさづき一歩甲一と。も
或乃れ内を身のしはまよふ被て。微細の傷を
ささづき被て。二十余年申すは流ゆり。申すは海舟を
流のまをちら。風物の中よ。あふ被て。は内裡を花
乃開る。は日試さしと。其角を他よあふま。を考へ
もあさづき。涼光いふと。あさづき。あふ傷ま。若くは
祇園の敷よあふ。中邦未厚。は風物につ。あふ
傷ま。千歌を曲。は風物。の情れ。あさづき。あふ傷ま。若くは

横倉乃月よあさづき。まゆら松中乃田園よあさづき
社まを横よあさづき。惟我にさし。あさづき。あふ傷ま
梅の甄白小傷ま。許さくは文章。あふ傷ま。あふ傷ま
芭蕉流よ傷ま。あさづき。あふ傷ま。あふ傷ま。あふ傷ま
あさづき。あさづき。あさづき。あさづき。あさづき。あさづき
あふ傷ま。あさづき。あさづき。あさづき。あさづき。あさづき
あふ傷ま。あさづき。あさづき。あさづき。あさづき。あさづき

愛梅説

万子

全一篇説梅而無梅字。終句以二梅字結之

○藤原楚辞よあさづき。あさづき。あさづき。あさづき。あさづき。あさづき
乃あさづき。あさづき。あさづき。あさづき。あさづき。あさづき

はく縁と呼んで。その功もすくねくも。味も次也。秦楚より
 王延といひ。鄭越より土藉と引も。社納囊中の注を
 ころろふ。陳尚亦ハ武延の賊化す。鍾山の墓前額ハ之
 目旅サカもまじり色を愛せむ。家ハまじりけの幸ハ系を引
 子藕ハス子乃ごとし。四月ハ葉をせむ。初ねふ子を結ぶ
 ぬふことよけねし。産禪豆ハ入らね。いもづ子らそふね
 とよみく。教團ハ領る。名ハ秋の麻酒ハ海眉山の
 草とする也。卯月の麦飯ハまじりけ。乃とけり
 うやむ。世ハ世來とせむ。やさる神と。若僧の爲ハ
 かまう。うら。ハ参考り人活す。人殺す。類
 かくねばとく。撥調ハ多休を極ませく。そまけいとむ
 さまそつとら。いなり。とね

嘲二雷月惑ヲ説

毛純

入類

（藤乃言のあはれを去るぬ人ハ入類とこの也。古言虎ハ
 もろ人ハ。虎様の虫をすく。凡衆のうけ。ハ。さるる
 遠いならわ。かの人生活け打をえん。眠さまよかきこりの麻
 はよりを樂乃ラ上とす。麻酒さわ。着あまそく。ひ
 毛根根が。まじり。初のぬる。まじり。く。毛根根の
 狗皆月も。仕あふ。大まを領。治めむ。と。お。ハ。言。よ
 治う。又々令持の流人となりて。漢語の奥より。こ
 中。敷頭陀。ハ。人を治めて。和語家語。ハ。人を治

獲麟解

許六 長雪隱解

許六

藪醫者解

文村

○解類

獲麟解

許六

五老井 許六選

魯乃哀公十四年。西乃招麟を以て孔子は
 かくまきまいて。春好をとまじ。史記麟はいつきの時おて。孔子
 かく見えずしのおぞやといふ。鼠ハ愚くして火籠のま
 とをけて命をきり。麟ハ四靈乃随して。持ある
 身をたもて。うたふかきも又いふ。孔子は
 刑よさうがら。や牛馬の生れをかくる。やあり
 き。麟も又いふ。麟は道おこりつれ。やあり
 を。道は麟の上ありて。人の上は。

又いづし。藤はちよき。聖人も共こころせよ。例をも
 あらや。多し。聖人うたのふ例ありとも。道ハまじく
 所をも。是とてむたむくよ。もくも。儒道そとくしと
 おりよ。これハ。麒麟とす。しよふとひ。い。を。人。と。あ。び
 へま。の。あ。れ。る。ま。ば。親。し。誰。ま。機。の。畫。だ。ま。び。子。の。別。さ
 占。と。も。音。聖。家。の。こ。れ。ハ。ぬ。く。世。し。り。つ。る。著。お。く。毎。し
 親。し。も。こ。だ。神。も。機。も。履。だ。れ。と。い。ふ。み。と。失。ふ。す。て。も
 か。し。さ。神。バ。仁。義。乃。占。も。あ。い。ぬ。あ。り。し。も。あ。り。ぬ。べ。し
 藤。と。す。り。ぬ。聖。人。も。あ。り。也。又。聖。人。を。ぬ。藤。鳳。も。あ。り
 也。び。し。の。い。と。み。常。し。り。わ。い。ま。孔。子。お。も。ひ。ま。る。を。な。し。
 我。も。神。代。り。わ。あ。つ。ぶ。ふ。苗。内。百。子。枝。を。な。し。さ。ぬ。聖

お。な。る。ふ。藤。鳳。を。す。る。ぬ。は。は。し。も。な。し。大。わ。な。れ。を。ち。り
 鶴。ハ。時。と。勢。も。藤。び。く。人。も。切。と。さ。次。風。呼。び。旅。客
 乃。君。と。破。は。能。なり。か。ぬ。音。の。聖。人。い。よ。く。自。わ。し。ら
 ぬ。べ。し。え。ぬ。夜。と。乃。も。し。福。と。徹。と。死。が。あ。や。ま。り。ら
 る。り。か。ぬ。を。よ。く。さ。ら。し。や。世。間。を。人。と。あ。ら。び。し。て
 藤。鳳。の。こ。目。と。つ。ま。て。末。乃。凡。史。の。不。目。神。ハ。の。一。言。此
 あ。や。ま。り。し。て。を。人。なり。と。い。ひ。よ。か。る。べ。し。今。は。藤。と。解
 して。さ。る。ふ。お。ど。り。葉。と。る。春。遊。の。よ。き。湯。お。も。わ。公。せ。奉
 勺。乃。新。向。と。之。こ。り。し。あ。ら。ば。何。乃。結。藤。し。記。本
 乃。あ。ら。む。也。

ハイ臣評エテ曰
ノホレハツシク

長雪庵解

許六

又友人ウサキが生スト

○一巻の達人ハ。病者ト上座と評され。名學子持し人ト。
 神序の解いとす。早冷子妻ハ。四カ子ハ一巻と評
 一巻ハ。病者ト曰ハ。中内親の人トあり。多クハ一巻ハ
 つまじき事トも。一巻一巻ありて。万巻一巻ハ。かく
 一巻ハ。病者ト曰ハ。甲斐乃名物の分別ト云々。此ト云
 隠微と云ハ。本林堂丸ガ。まごを請かぞうと云ハ。
 信長トモ。病者ト云々。信長連托乃名分ト云ハ
 不ト云々。太極十八卷ト云々。け室ト云々。工史と云々。
 はくくと一と云ハ。乃あり。此を云ハ。此や。此夜乃云々。

薦乃編同と云ハ。日表と云ハ。人ト云ハ。はく出ると云ハ。
 新市ト云ハ。隠家ありと云ハ。怪ト云ハ。乃云ハ。世務
 取利乃云ハ。由乃云ハ。志づくと云ハ。同業ト云ハ。下綱
 解ト云ハ。後を評と云ハ。乃云ハ。入くと云ハ。遠と云ハ。此
 寂と云ハ。と云ハ。此と云ハ。此と云ハ。此と云ハ。

何およもく書院乃云ふ周扇

藪殿曾者解

汶村

○世ト云ハ。新野と云ハ。と云ハ。今ト云ハ。今ト云ハ。今ト云ハ。
 ト云ハ。ト云ハ。ト云ハ。ト云ハ。ト云ハ。ト云ハ。ト云ハ。
 列奏又ト云ハ。ト云ハ。ト云ハ。ト云ハ。ト云ハ。ト云ハ。ト云ハ。

せよ。四をこむ。此はくぬぎ。さねは。毛。皮。と。ま。る。ふ。
 其。其。と。智。ふ。事。洋。く。酒。く。よ。と。び。る。し。や。ぶ。こ。と。ん
 只。む。病。家。も。信。を。ま。り。茶。力。も。飛。ぐ。ど。く。そ。ね。り。物
 換。星。移。け。く。今。ハ。長。物。も。長。居。と。な。り。毒。ら。ま。ハ。毒
 益。と。り。後。当。時。の。救。命。と。ん。る。小。せ。ん。門。は。屋。後。の
 聖。手。物。を。け。う。し。竹。枯。子。は。毒。は。茶。乃。着。板。と。り。け。く。
 又。子。の。傳。は。も。も。お。ハ。元。く。り。そ。の。田。さ。り。の。茶。れ。を。ね。て。
 茶。店。よ。も。ま。ろ。せ。物。中。ハ。暖。屋。の。内。よ。各。て。女。房。の。衣
 と。つ。ひ。可。後。ハ。茶。會。を。療。し。茶。代。は。め。ず。ら。河。原。出
 ま。乃。ま。け。牛。膝。ハ。牛。乃。膝。を。君。の。鶴。丸。と。鶴。の。志。く
 み。を。さ。ぐ。も。茶。れ。も。不。丹。よ。か。ま。て。胃。の。氣。よ。ら。え。丸

毒。へ。く。果。ら。何。ぐ。村。乃。石。場。の。水。を。す。け。家。佛。港
 の。な。と。と。て。ろ。神。を。押。ハ。佛。説。も。い。ま。ぶ。と。續。く。と。ま。る。ぶ。
 こ。も。も。効。と。考。い。な。ぐ。う。家。近。め。く。成。り。茶。ぶ。今。も。や。
 向。一。紗。後。ち。り。ん。の。茶。の。中。も。お。が。け。い。り。い。
 細。衣。本。茶。を。の。さ。と。り。の。拂。ま。も。ん。汗。を。神。ど。
 佛。法。ハ。茶。毒。の。氣。遣。る。を。い。い。も。な。ら。ま。の。へ。
 そ。も。教。醫。者。乃。中。ぶ。り。ふ。又。お。ろ。竹。の。子。も。茶。と
 が。し。む。ら。う。う。は。さ。さ。神。

高

高

高

落柿舎記

去来

幻住菴記

芭蕉

十八樓記

芭蕉

五老井記

許六

九華亭記

汶村

琵琶亭記

許六

風臺水基記

許六

附 紀行

鹿嶋紀行

芭蕉

南行紀

許六

風俗文選卷之五

五老井許六選

記類

落柿舎記

去来

○縁ゆひののゆる家ゆるぞのほり小柿の小四よ
あるまゝとせとせ給われとこのも持集りしと代り
とさもまじりて西風よ落さるるまは主祥の志も
とちよ着やも鳥よさらし種まいた乃帝のめらと
も徳さじしを安も人ともささいいんこのありきわ
てし八月乃末がしこよしぬおしりさかこ
高人のよありさよよかいゆめひと一書又さか

後びかつらぬ。予ハ程そふふと申せらるるふらりと
御松一海老。いしくとをよつあう。夜たはく高
もやまの海老。高人の足集まらぬ。指はくくとお孫
わ。海老の海老。乃はくわ。白髪生るるよ。げりよと業
ゆきとくくともあわゆる様とんじ。このふれ價がく
くれとんじもや。怪むと使まき被る。ゆら〜やりぬ。者
乃か〜。なとち乃汗ハ消息送る。え。い〜。海老
今のままと書ん〜。欠くわ。

林ぬ〜。やま〜。果たら〜。此あり〜。心

幻住菴記

芭蕉翁

石山乃奥。岩間のう〜。うふ山あり。園か山と云ふ
〜。園ふち乃名を傳ふなるべ〜。林藤は細小流を
流して。翠嶺は登る事。二曲二百歩に〜。幅
宮のせまふ。神作ハ鉢陀乃る像と〜。唯一の心
ま。甚忌めらるる事。兩部光林や〜。を。利益の慶
を回〜。〜。志なふも又平ふ〜。目以〜。人乃指
さり〜。〜。神さび。物志け〜。なる。傳。住持
〜。家の〜。ある。〜。根邊斬と〜。み。な。ひ。り。わ
〜。〜。〜。〜。幻住菴と云ふあり〜。

乃僧何ぐの曾士菅沼氏曲翠子の伯父よりん所也
 を今ハ八年むらびりよなりて正は初信寺人の
 名とのそあきり。又市中とさる事十歳ごらわ
 してみ十子やらうむの兼徳乃みの成夫に
 鴨家と歌して奥羽家海の異を日面をこが
 してさるあやうらうら北海乃美徳よこび
 と夜つてと兼徳水の波よたふし鳥の浮雲乃
 ちう徳とさる事一平の法ありい
 新陽源ありむ光恒の結さる事一平の法ありい
 くと光いとも初よ入一山乃やととさる事一平の法ありい
 うとぬさる事一平の法ありい

山後妻よか川く時多志むくさる事一平の法ありい
 乃便えある成。亦つよ乃はくさる事一平の法ありい
 海よ奥トて魂是楚東南よと身津波細
 庭よ立山を東申よとさる事一平の法ありい
 陽り南置意家よらあり一北凡海を漫して涼
 日校の山は良のる報よ。幸崎の松を案こ然ん
 降あるも格何家。約くさる事一平の法ありい
 本推の夢。林原の小田よとさる事一平の法ありい
 新寺よ水鶴の平くさる事一平の法ありい
 いふ子好。中よと正山。と家れ付よかよして
 花やうふらふすくらも花りいして秋回上山よと

人といふよ。さかづか。嶽。千丈。孝。袴。腰。といふ山あり。
黒部の山。いといふ。ゆるり。帯りて。細代。さよ。と。い。よ。み。
む。む。美。さ。か。集。乃。染。さ。り。く。り。杉。眺。る。と。ま。ま。い。く。
ひ。と。信。の。ま。よ。遠。の。ぼ。る。松。乃。棚。は。く。り。美。乃。田。産。
を。賣。く。様。の。腰。掛。と。名。づ。き。彼。海。崇。よ。草。を。い。し。る。
ひ。主。乃。美。よ。卷。を。張。つ。る。王。翁。除。任。が。後。の。あ。ら。ん。
唯。膝。膝。山。氏。と。な。り。て。藤。都。よ。足。を。ま。げ。せ。り。亭。
山。よ。町。を。和。て。座。を。ま。ぬ。く。心。中。決。あ。る。何。の。谷。か。ん。
清水。を。汲。く。自。炊。く。と。く。乃。常。を。傳。て。一。所。乃。
備。い。と。う。り。と。い。ひ。り。位。も。む。人。の。好。よ。ん。と。く。何。
か。一。つ。と。い。き。ら。も。お。も。る。お。し。死。も。な。り。持。佛。一。個。

と。備。て。夜。の。お。も。さ。む。い。ま。さ。よ。な。り。い。さ。く。り。と。う。つ。へ。と。
と。向。を。眺。み。紫。さ。う。え。山。の。借。正。々。加。奈。の。甲。斐。が。何。ぐ。り。
と。敵。を。う。く。ば。う。び。流。す。の。目。り。い。ま。ぞ。り。わ。る。と。あ。ら。ん。
を。い。類。を。い。い。と。や。も。く。と。筆。を。濡。て。幻。住。卷。し。乃。二。
字。を。送。り。し。ゆ。於。て。ち。り。卷。の。祀。念。と。な。り。ぬ。さ。ら。ん。山。
后。と。い。は。孫。孫。と。い。ひ。さ。る。器。そ。く。り。ふ。危。く。も。な。り。一。本。
さ。り。松。を。越。の。若。妻。と。い。り。松。の。と。れ。折。よ。あ。ら。ん。の。さ。ら。ん。
ま。ん。と。い。ぬ。と。ふ。ん。と。よ。ん。と。動。一。あ。ら。ん。宮。や。る。れ。翁。
里。の。お。の。と。入。ま。り。て。お。の。さ。り。の。福。く。い。あ。り。し。丸。
乃。豆。細。よ。か。り。ふ。た。と。い。ふ。あ。ら。ん。ぬ。農。務。目。既。山。の。
陽。の。ま。ば。夜。産。婦。よ。月。を。結。て。と。紙。を。傳。し。松。を。

取てた岡^{ツラカ}両は是地とてうはくつていふ。いふあふ
系^{ケイ}寂を好む。山^{ヤマ}野^ノの跡をかくさしとふあうは。屋
病^{ヤメ}身^ミ人^ニの倦^ツぐ世をいふ。人^{ヒト}の似^ニたり。結^{ムス}ら
手^テ乃^ノ乃^ノ福^{フク}。一^{ヒト}推^シよ方の神^{カミ}をおりよ。あふ時^{トキ}は
能^ノ然^ニ今^{イマ}此^{ココ}地^チとてうや。いふ。佛^{ブツ}離^リ祖^ソ家^カ乃^ノ麻^マよ
ひとてう。いふ。あふりなふ。因^{イン}者^{シャ}こよ。身^ミとせ。た。祀^ヒ者^{シャ}よ。樹^{ジュ}を
常^{ジョウ}として。志^シ。いふ。生^{ナマ}涯^エの計^{ハカリ}とて。え。神^{カミ}は。終^{ハヤシ}よ。世^セ能^ノ
世^セ刻^{キョク}引^ヒい。げ。一^{ヒト}筋^{スジ}よ。つら。な。楽^{ラク}天^{テン}の。み。勝^{カチ}の。祚^{ソク}とや。あ。わ。
老^{ラウ}社^{シャ}の。體^{テイ}。い。り。賢^{ケン}愚^ウ文^{ブン}。世^セの。い。い。の。う。さ。う。も。つ。づ。き。
初^{ハジメ}乃^ノ初^{ハジメ}う。も。や。と。お。り。い。推^シて。お。い。ね。
先^マの。の。心^{ココロ}推^シの。ま。も。あ。り。互^{タガヒ}あ。ま。ま。

十八樓記

芭蕉翁

のみ。心^{ココロ}あ。う。川^{カハ}よ。お。さ。て。お。操^{マサ}ある。と。あ。う。と。を。か。る。海^{ウミ}
矢^ヤといふ。稻^{イネ}葉^{エハ}山^{ヤマ}後^{ノチ}よ。う。く。乱^{ラン}心^{シン}た。ん。た。よ。か。さ。ら。う。り。く。
ち。う。ら。次^{ツギ}遠^{トホ}う。を。回^{マワ}中^{ナカ}の。ち。の。板^{イタ}乃^ノ一^{ヒト}む。う。よ。か。ら。終^{ハヤシ}て
卷^{マク}よ。う。ふ。氏^{ウヂ}家^カ行^{ユキ}乃^ノか。こ。み。の。み。ど。わ。も。涼^{スズシ}。一^{ヒト}曝^{ハク}布^フ
お。く。よ。列^{レツ}を。して。右^{ミドリ}よ。海^{ウミ}。一^{ヒト}船^{フネ}渡^{ワタ}り。里^{サト}人^{ヒト}の。初^{ハジメ}い。ま。げ。く。
漁^{イサ}村^{ムラ}新^{ニウ}を。か。う。て。細^{ホソ}を。ひ。よ。釣^{ツリ}を。ま。る。く。ま。の。か。さ。ぬ。ぐ
も。さ。う。い。様^{サマ}を。よ。ん。る。は。の。地^チさ。り。書^{カキ}う。い。お。其^{ソノ}は。日^ヒも。ま。る
む。り。入^{イレ}日^ヒ乃^ノ新^{ニウ}も。月^{ツキ}よ。か。り。り。く。波^{ナミ}よ。む。た。び。う。く。か。り。り
大^{オホ}乃^ノ新^{ニウ}も。や。ち。う。く。こ。の。様^{サマ}乃^ノり。と。小^コ橋^{ハシ}飼^{カヒ}す。ら。な。と。様^{サマ}

めざしふ見あかり々々。かの深淵乃ハ乃たが人
 面湖乃十の境も涼風一味のうらふおりのあまらわ
 ともは様よ名といふむとならふ。十は様よといふゆり
 まはらふ。

はあともり同よんあれとみ原一

五老井記

許六

○霊泉あり。水乃きくゆれり。終よえあかりり。二
 尺乃盆池。ゆらぎまじり。清く濁りまじり。五老井一と
 名づく別墅をひく。あておき。庭と結ぶ。主人姓ハ森。石ハ
 許六。ゆり。五老井。先世し。澄と。あ老ハ。り。別号也。

驛ハ石知川。みゆり。石知の山南。一。十旬乃
 休暇と。うら。い。ま。日。れ。剛。を。領。む。る。ふ。る。り。お。き。よ。剛。泉。池。を
 状の。湯。を。坂。西。に。新。一。め。の。池。の。お。り。一。室。泉。と。ま
 一。汲。く。凡。強。乃。自。い。と。庫。の中。よ。と。め。む。し。な。し。其。水
 乃。清。き。り。い。憲。山。乃。泉。脈。を。通。一。其。き。り。一。南。州。の。金
 泉。よ。い。一。ま。じ。り。乃。新。白。散。の。茶。を。さ。け。て。ゆ。り。い。様。
 四。寸。の。は。ま。湯。と。ま。じ。り。中。か。さ。ふ。り。い。様。一。と。せ。の。り。ふ。り。い。様。く
 泉。と。ま。じ。り。乃。其。ま。を。自。い。と。い。霍。山。鳴。り。井。盤。乃。細。流。
 為。と。人。乃。柳。の。陰。も。今。け。水。は。付。さ。い。ぬ。其。法。を。要。唐
 大。一。と。神。佛。に。さ。り。ま。じ。り。と。す。一。と。目。堯。の。井。と。掘。高
 乃。あ。ま。と。ま。じ。り。ま。じ。り。と。す。一。と。目。堯。の。井。と。掘。高
 乃。あ。ま。と。ま。じ。り。ま。じ。り。と。す。一。と。目。堯。の。井。と。掘。高

山ありとて、葉の星し、子、曉は、おぞと、言ふ、新して、眺を
 き、ま、り、わ、り、し、し、水、の、清、く、い、ま、は、水、乃、山、の、ま、く、ず、う、お、日、枝
 伊、吹、の、ま、は、ら、ら、こ、し、た、こ、ろ、振、り、舞、と、う、く、西、南、乃、乃、り、よ、お、ち
 り、あ、あ、も、い、ま、は、た、ま、の、河、の、あ、り、も、た、止、乃、右、ど、こ、ら、と、お、ち、り、ね
 枝、と、申、て、い、ま、と、思、ひ、思、ふ、登、海、茂、原、ハ、産、と、ま、り、し、葉、
 と、若、葉、と、吹、く、林、庵、の、終、り、遠、之、枝、と、ま、う、ま、て、勝、と、宮
 の、原、に、こ、い、人、一、種、を、金、う、ら、ん、系、統、を、枕、を、は、は、遠、の、お、ち、り、お
 ち、し、月、は、た、船、と、う、く、環、波、の、波、も、里、の、砦、と、合、を、い、れ、枝
 と、か、れ、び、危、を、ま、ま、と、あ、く、も、樹、は、本、餌、と、入、も、忘、お、の、ま
 と、の、い、う、か、わ、さ、あ、く、柳、と、穿、て、い、れ、乃、凡、物、を、お、わ、み、色
 の、お、ち、り、を、た、ら、し、こ、い、も、山、轉、乃、為、よ、ま、り、し、り、あ、ら、る、
 潜、居

スホ

士、又、画、は、僻、す、ら、り、二十、来、年、玉、膽、芝、陽、と、い、い、揚
 子、梅、道、人、が、四、角、懸、を、御、て、吾、徒、乃、も、を、代、だ、り、し、乃、梅、自
 持、一、味、の、風、雅、を、兼、び、て、世、上、に、か、か、り、根、を、お、ま、り、
 か、心、頭、乃、ま、の、い、ま、ま、り、は、風、雅、ハ、是、也、と、あ、り、そ、い、
 画、番、ハ、御、考、乃、お、お、ま、り、い、ま、ま、り、と、い、い、り、乃、風、雅、の
 為、よ、又、惠、を、さ、ら、し、し、り、と、い、い、り、乃、ま、り、と、い、い、り、
 同、ド、う、し、て、ま、く、昔、林、を、い、ま、ま、り、と、い、い、り、乃、
 個、個、了、れ、ど、も、ま、よ、ま、り、あ、り、ま、り、の、た、り、し、四、隣、乃、を、い、ま、ま、り、
 同、乃、中、林、の、ま、り、ま、り、ま、り、乃、勝、を、教、り、し、乃、ま、り、の、流、
 乃、勝、を、洗、て、ゆ、る、平、河、元、祿、を、ま、り、に、申、ひ、乃、二、月、に、在、
 寧、林、下、乃、勝、を、ま、り

寧林下乃勝を

水節をとりて移しく足ま六節の風

九竜亭記

汶村

○亭ありし。九竜と名づけし。九竜何ぞ何とや。抑九竜安知
神心の名なり。此の九竜あり。丹の九竜あり。金の
名あり。八王侯の用をた。魏の武帝の臺と名づく。扇の
伊氏の家と名づく。觀あり。殿あり。帳あり。扇あり。
菊の九竜乃名ありて。茶のとも。又け。芳名あり。上清奈
人の目見と呼ぶ。大宇九竜あり。ま。正片と名づく。井の
九竜と名づく。建敷の九竜先生と名づく。前鶴の九竜
山人と名づく。家。必指の亭。九の陽の極教といふ。理る。

もとて。其ハ杜康乃ひみも。あ。そ。あ。そ。あ。そ。
や。か。ふ。天。地。の。う。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
か。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
あ。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
細。う。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
そ。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
か。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
あ。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
そ。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
あ。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
下。松。氏。汶。村。之。記。と。し。り。

琵琶亭記

〇ひー嘉祥乃此。貞敏とよ人。之面の琵琶を度々よ
 傳を。於代りよ他りおつまきする。樂器おほしといへども
 あらう大乃るよやく。又々回金おとち落て。にりいさす
 のこおほ。あは右揃一面あめて。統よもいあそふ人なり。
 乃乃後政も。撥弦うして。ときがく。関乃。擧丸も。膝
 せよ。を神バも。いなり。柱よ。四乃。乃。乃。をそそく。あ
 べき。まづ。いも。かく。何系が。被乃。そく。い。おもい。まづ。な
 べー。撥面よ。ハ。かく。乃の。松と。急ぐ。足。よ。ハ。舞。回乃。在
 指を。振き。こ。こ。ハ。二。乃。月。を。こ。ハ。い。入。方。の。なり。免。を。時

雨乃細きいと。ゆを。絃。半。よ。祢。ぢ。あ。を。花。さ。き。ふ。山。況。と
 あり。お。う。神。を。お。い。み。勢。唱。涙。乃。夕。々。被。よ。秋。に。あ。い。し。
 と。か。り。い。あ。ま。て。々。強。ト。ま。ま。い。ハ。お。さ。世。倦。時。々。乃。乃。指
 川。よ。只。と。お。け。眠。る。時。々。こ。上。伊。吹。よ。枕。と。こ。う。う。と。い。亭
 乃。あ。る。ト。ハ。誰。を。秋。原。氏。の。け。い。う。言。ふ。り。ハ。神。を。狂。琵琶。を
 と。名。け。び。い。伯。知。が。こ。こ。へ。も。鐘。子。期。が。耳。な。く。て。ま
 蓋。か。り。ハ。神。を。ま。ま。く。ん。な。被。そ。お。老。井。の。神。子。ハ。カ。を
 合。せ。い。ま。ま。う。せ。て。記。を。同。ト。完。子。執。乃。お。答。大。の。喚。つ。を。長
 る。を。こ。こ。家。と。い。ふ。こ。こ。

風臺水其記

許六

西梅臺の南ふみ風臺水着と築く。凡々涼をとる。あ
 月とあまもみんなくべー。あつ風あをくく。あむ。あ
 積しりして。梅の氷を浸し。梅の嵐をよき信てハ池
 あつて。荷葉おあそつたわ。まへ人律所風は。あつとく
 遊び。解若まへ飲で月とあ。あつとく。あつとく。あつとく
 ざつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく
 け。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく
 酒。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく
 あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく

凡々。梅。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく
 せり。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく
 く。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく
 相引。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく
 下。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく。あつとく

風臺水其記

○紀行類

鹿嶋紀行

五老井 許六撰

芭蕉

○渚乃貞堂。流しお浦の月見より。松ヶ丘や。月を
 之み松中細玄といひをむ。相更のむしもたし
 けしむまきふ。けし秋麻嶋心乃月見むと。おしむる
 あり。はしふ人ふまきわ。いしわハ流客乃也。むらむらハ水
 お僧傍らかしもの。てくならる。墨のなよと衣お感をも
 えらとよおくを。出山おき像を。厨子よあう火入く。山
 せをよ。柏杖^{ヤキ}成なり。く。無門乃開もさる。心
 おめつらよ。徳あ。して出ぬ。今いしわハ。僧もあらむ。

俗にもあるを。乃る乃る。名をわたりぬり。其のなまは。海
 もも渡りぬ。舟にて。門もわ。船も。案て。舟。海。こ。り。下。り。了。
 一。幸。舟。船。を。あ。が。れ。ば。馬。も。も。の。う。も。と。細。艇。乃。ち。う。り。を。失。
 こ。じ。と。あ。り。し。り。ぞ。り。甲。斐。あ。ら。あ。る。人。の。は。さ。せ。き。る。
 舟。も。い。は。い。ま。る。き。を。を。あ。く。つ。だ。お。よ。ま。り。の。く。
 や。ん。こ。り。り。里。を。す。ぐ。れ。が。ま。が。の。系。こ。り。の。あ。ま。ま。
 あ。る。秦。旬。乃。一。千。里。と。や。目。も。も。ら。る。と。い。ん。た。い。さ。ら。ん。
 は。い。ん。じ。い。よ。り。さ。る。く。二。事。な。ら。び。き。そ。り。の。産。土。の
 双。剣。乃。等。あ。わ。と。さ。う。へ。一。片。心。乃。一。腐。な。り。若。々
 中。々。深。先。び。り。さ。れ。乃。つ。く。い。れ。と。我。門。人。嵐。者。が。う
 なる。と。す。ぐ。く。い。ん。た。回。中。義。者。が。お。え。来。を。は。き。ら。く。い。

連。并。も。も。人。乃。ぞ。り。光。も。若。つ。け。そ。り。和。あ。な。く。ら
 あ。る。く。く。も。白。な。く。ら。色。べ。く。も。洋。も。あ。し。す。く。よ。い。し。あ。安
 だ。と。さ。り。し。若。々。綿。を。地。も。さ。き。し。ん。や。う。え。若。仲
 が。若。提。も。折。入。く。於。の。ち。え。は。お。え。も。お。を。も。ら。る。も。風。流。め。く
 か。ら。ど。き。ち。か。り。を。こ。か。り。一。か。ら。う。や。尾。む。こ。し。神。合。て
 小。男。康。乃。つ。ま。あ。り。考。り。つ。と。あ。り。神。な。り。聖。の。物。取。地
 が。い。ま。む。神。あ。り。く。又。あ。り。神。也。目。す。ん。よ。を。を。か。ら。る。程。よ。
 利。根。川。乃。不。も。も。あ。り。梅。こ。り。よ。い。よ。は。く。ば。川。り。と。神。の
 細。代。と。り。よ。も。あ。り。を。こ。り。え。民。江。の。市。よ。い。い。く。其。あ。り。
 青。乃。ほ。い。し。その。漁。家。よ。入。く。や。ま。い。ら。い。お。お。宿。膠。一
 月。う。あ。り。く。睡。ま。る。さ。り。よ。お。お。お。さ。り。て。康。乃。よ

諸遠——と校の記をかくらん。首よりけとる取陀城。
 舟をせしれ舟果一あり。布川山乃山中。道づもせせと也と
 見まがふ念神なる所なりとわ。男是より。南又々也いせ
 乃中何の法也先やとすつ神。やぐんお山の池ははく。一
 少るま小流呂舟時宜は河をうけ。聖名神の役も
 なる夜ある湯と諸流の池より。湯中ぬのおぼを定ぬ。
 程見くのみやと名も記さじ。一神も湯中ぬよつきて也を
 べ——と。書記も湯中ぬと男よは——ぬ。
 ぬまが流生れ口湯中ぬ男ぬ——と起て流へき入
 くる一は例の一獲也とと勢を神が。解をく流よとゆ
 せり。天氣よたお入をい——とつて。並本は本

法まにれおら——と。を道人のまを内。を流く——と
 法麻山神むと。聖なる也。男も。

天井テニジヤウも首ツビははく——と。山さく——
 聖

伊勢は馬士ウマシの程麻や花も。男

川中坂におい——と。お坂の中にお坂乃也も程がく
 ち——とすわ。

割も竹尾どむり也。郎あ——
 聖

割も竹尾どむり也。郎あ——
 茶店をとと——
 寺もくあし。とつと勝をうけすわ。

田タもあやあよのくにはよなくおら。男

たそが流こる。おははよる。宿新葉也。おははははし。

みかえくわ

柞神おほ備くわ神がまの川のまのハ忽トキナキとひまきく
くもをまのつとくよ源のおくくつとね。

奉納二句

割海言もわえの塵乃いと川男

松檜川を隔てて曇乃神男

夫乃若戸よ入まば灯はかやトコ。昔園乃ひり女
神を那よりかきりたり

穴籠とえ神ハおそぬ一雉子男

道言も備く。神社ちうに松乃ひりまふ女。荒瀬川女
まきくわ神所常おほんく女。てくわ石の上女

てあ一を備へるにんもまよとありて又よま女
鹿乃松乃カ女。こま女。小社の塵女ま女らり女。
いま女。ん女。神女。あ女。り女。ま女。と女。
ま女。と女。ま女。と女。ま女。と女。

百八乃なるく乃く備藤く男

今そ志ら月日の花も花さ男

つまをぬ若跡も言女。及女。す女。ま女。と女。
かま女。二見のま女。ゆ女。と女。神女。
おろい女。ま女。り女。て女。例女。乃女。たま女。の女。神女。よ女。海女。守女。て女。那女。ね。

四

曠野集序アラノシラジ

芭蕉ナルミナ 猿蓑序

其角

真柝後園序エニスルリゴニ

支考 近江八景序アノミ

千那

四一絶文章序セウブンシヤウ

李由 要文集序ヨウモンシラ

許六

画樓繪合序ガホウエガセ

許六 麻生後序アサフコウ

許六

銀河序ギンガ

芭蕉 番椒序シリガラシ

野坡

○序類

曠野集序

五老井 許六選

芭蕉

一 曠野集序。恒本堂主人荷兮子。集を編てるをあるに
 して。何ゆにこれ名あるなりと云ふ。予らふふかりし
 こと。何れも此集と稱するに。おもしろく。乃忠於とありけり
 中乃月。いよ。そを日げおほふ。おて。乃の口とせよ。わ
 やうも。むい。や衣更。衣更。泳し。乃そ。お。き。柳。極。の。綿。を
 あら。い。し。襟。を。お。の。が。さ。ま。し。か。る。況。は。よ。う。ま。て。御。

實とことかよとのしほは。や。新。御。乃。の。い。ん。が。なる。ん
 ろ。う。し。あ。る。ろ。か。び。た。ふ。そ。よ。わ。り。て。始。ゆ。り。乃。か。あ。ら。つ。ん。

一六

五老井

手は存乃おほえよとれまて。空果乃まひりわあは。道乃乃
まらまらべまじと。ばあとの原お神守とぞか神さづくし

元禄二三年一月一日書

猿蓑序

其角

○とくといふ。集はらるる。古今よとくして。び道乃おりて起
と(ま)付たり神也。幻術乃中一とて。まじ魂入さ神は
よまらんとし似たり。久しく世よとくまをなぐ人
うらして。不変おまるとあり。じ。お徳いよよ及ん心
し。よまきと。一。あ。た。わ。彼。あ。り。よ。人。の。身。よ。人。を。地。

ま。て。く。夢。日。神。を。る。第。と。吹。や。う。よ。な。む。侍。る。し。P。さ。神
ま。人。よ。成。く。侍。ま。じ。も。み。乃。夢。の。日。う。神。ぶ。る。は。及。魂。乃
法。乃。お。ろ。そ。に。侍。る。也。さ。神。は。ま。ま。い。お。の。入。り。う。バ。イ
ウ。エ。ラ。ぶ。く。ひ。ま。て。い。つ。な。らん。吟。声。も。出。ぬ。べ。ー。ぞ。も。地
信。よ。魂。の。入。り。らん。よ。う。と。て。家。箱。の。脚。の。よ。ん。守。笑。神
一。ま。る。し。申。よ。ん。猿。一。小。蓑。を。ま。ま。て。ま。い。の。神。と
入。り。ま。い。い。れ。れ。が。ま。ら。ま。ら。お。勝。の。お。い。を。叫。ひ。ま。ま。
あ。ぶ。よ。懼。づ。ま。幻。術。の。わ。こ。神。を。ま。ま。い。て。い。集。を。地。
ま。ま。猿。ら。お。と。い。名。つ。ま。P。さ。神。を。る。あ。神。の。序。も。ま。ま。を
ま。り。て。魂。を。合。ま。く。ま。ま。凡。兆。乃。ほ。一。あ。り。る。よ。ま。ま。を
て。序。し。

真柳存園序

五考

○世にあまふ人ありて。後世推錦律よそのふ所々。樂つきて
ほそとけしじものほし。山梅樹下にあまふとけしじもの
ふ種が世よこやじしもかきぬし。いぬひ乃さうじ
あうさるもけんとんよ天遊あもとぞ。むじし人ものつら
さ被ば柳存園の何ぞ。之西乃友をあもて。何ぞふ
る日あも。類よ六剛乃一孝と題して。志けつたし。及附を
様よなり。やうやうま何々さうさ海よさて。うけ何の心よ
ほひりた。大木の影ん人よやけつらむ。いぬひもむけ
け柳にあまふびく。今酒のすむと備し。きるにん

おをとも火はふ余情をりよ今うら。罰の金谷の酒は
つらむ能後よ割し。入き何何ら。いよわとりよまおし
うさたさむし。しごきいめれをけ。

近江八景序

千那

○近江八景を。遊所の絶景とあつじ。びん田田わ。之井
石よはくたると。やまは亭詩をんはし。濟回文格と
合と。漢湘入八景よなむし。ハ乃玉をまむ。うけり
水深まむ。仲の月よ糸して。近江乃政治家。石
心まよあまつ。時。いんてけ糸を縁と。すんく家
心八景。信寺。福心。十境。歌をん。いよる。

八乃持あるあやうに何を。他後（カ）の八葉あるを。と。
 八乃持あるあやうに何を。他後（カ）の八葉あるを。と。
 八乃持あるあやうに何を。他後（カ）の八葉あるを。と。
 八乃持あるあやうに何を。他後（カ）の八葉あるを。と。
 八乃持あるあやうに何を。他後（カ）の八葉あるを。と。

四絶文章序

李由

① 祥氏（カ）が女を井（カ）。四絶あり。絶々絶務の義なるべし。
 祥氏（カ）が女を井（カ）。四絶あり。絶々絶務の義なるべし。
 祥氏（カ）が女を井（カ）。四絶あり。絶々絶務の義なるべし。

茶芝（カ）がくへー。家向（カ）のあり。四々須弥の四列（カ）。
 茶芝（カ）がくへー。家向（カ）のあり。四々須弥の四列（カ）。
 茶芝（カ）がくへー。家向（カ）のあり。四々須弥の四列（カ）。
 茶芝（カ）がくへー。家向（カ）のあり。四々須弥の四列（カ）。
 茶芝（カ）がくへー。家向（カ）のあり。四々須弥の四列（カ）。

暇に居るもて。むすむ之乃篇より。第六のちあはる
まつ。内よかりくを。愛為より。わて。法名を。く。といへ。法
と改名して。やぐ。う。を。ぬ。妻。子。よく。か。け。い。ふ。と。い
け。世の業ハ。是。此。なり。せ。火。て。来。世。よ。ま。は。れ。時。は。善。徳。と
ま。は。き。ふ。と。い。へ。ど。法。師。か。ら。法。名。を。て。家。法。名。ハ。出。乃。き
い。よ。あ。ふ。む。今。六。の。當。由。多。法。ハ。是。此。なり。と。い。へ。法。名
か。り。て。法。名。を。ぬ。今。六。の。法。名。を。か。く。法。名。と。い。ふ。の。く
こ。法。名。を。感。得。て。説。賊。銘。賛。乃。四。文。を。書。し。て。終。り
六。老。志。よ。と。い。へ。其。中。の。終。り。一。章。を。く。い。へ。お。ろ。く
ら。み。絶。と。な。し。ん。中。を。と。く。や。ぐ。四。文。章。乃。始。り。病。し
て。い。ふ。と。の。く。い。法。名。を。か。く。い。の。の。

要文集序

許六

○お坂山乃。板。よ。言。々。と。終。り。と。法。名。絶。く。と。終。り。一。法。の
日。を。り。終。り。少。少。終。り。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。
く。よ。お。の。つ。一。章。の。お。い。わ。く。る。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。
か。あ。く。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。
や。あ。り。を。世。に。お。き。と。い。へ。法。名。絶。り。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。
ら。り。ら。が。物。志。り。と。い。へ。終。り。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。
と。も。回。り。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。
か。り。め。や。あ。り。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。
終。り。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。と。い。へ。

於雷雨内書き。一日の標記也。又云私のいふ言をねんみ。
花を度し。水は戲ま。月も書よ。雪も吹いて。又
思く日まくれ。どと描く。流龍の口あひく。あつて
高きより。あを汲付。例の報客入らむ。あつら
お冷酒飲。炭火まわ。はく。泥。果ら。お花
し。あは果く。し。年一の。頻。画標と造る。おやま
さ。お。あ。の。花。高。書。を。書。乃。く。ま。と。扱
く。ぶ。書。存。あり。す。日。々。標。乃。白。ら。す。日。々。標。乃。
こ。の。人。集。え。修。と。ぬ。ひ。内。ま。は。先。へ。り。の。河。あり。ま。ま。子
々。之。倉。乃。曉。を。期。と。物。し。て。ぬ。次。の。日。来。て。も。や
ま。て。乃。罪。を。ま。む。る。が。標。乃。ま。む。人。し。ま。む。く。む。と。

こ。の。ま。ま。し。ま。む。乃。罪。と。う。ま。ん。家。を。ぬ。く。繪。乃。く
お。の。意。ま。ま。し。と。い。ど。と。隣。人。の。ま。む。し。ま。む。く。む。と。
ま。ま。め。也。ま。ま。平。終。る。向。々。七。年。乃。月。日。也。ま。ま。成。花。乃
時。乃。と。ま。ぬ。べ。し。標。成。く。向。中。ま。ま。人。歌。を。標。く。人
物。山水。花。禽。と。う。つ。と。者。一。軸。を。懐。く。て。た。た。ま。列。ま。む。
ま。ま。ま。務。乃。面。を。ま。ま。し。げ。扱。ま。ぬ。向。人。ま。ま。む。り。う。ま。
こ。の。標。を。画。標。乃。繪。合。と。い。ふ。標。乃。ま。ま。と。井。許。子。之。自
序。乃。川。く。ま。ま。鄭。乃。公。が。標。乃。教。乃。老。画。師。と
稱。乃。の。こ。し。時。元。祿。壬。午。乃。一。十。月。日。ま。ま。の。

麻生好序

作六

麻生乃名と。烏帽子柳ともいふ。好よ赤烏帽子
 といふ。よにひの釈をいへ。てんてせらねんひ乃
 二より流きか。天比思は乃そぐんともなる。好むし
 妹といふ人此乃好あり。ひるゆるこもり起て
 ぼ糸後あはるのひのちをぬま。信成の勢よ
 寂まに柳の枝乃文書い。まほくまへ。桃と
 いふ。桃生よまか。羽を果弱とすれ。わ。是ハ
 好むをこのは流よ及べ。晋子。傾性。阿山人が
 女ら。好タリ。て。右後乃の柳乃。の字好ひまハ

未摘也乃くく。存と。同。ひる。カキクケユ。と。い
 ち。あ。人。が。赤。い。ち。く。乃。赤。い。ハ。好。よ。赤。烏。帽。子。の。あ。ん
 ち。を。あ。ぬ。め。い。く。り。さ。い。柳。が。探。老。の。記。ま。し。柳。好。園。の
 へ。る。柳。が。柳。乃。も。ら。き。亦。と。も。げ。葉。よ。あ。く。は。へ。い。や
 柳。好。大。赤。と。跋。も。

銀河序

色意

○お陰はよ約購して。越はよ本やと。いふ所。は。河。内。
 彼作は。一。由。是。海。の。西。十八。里。陰。波。を。あ。て。東。西。三
 十。五。里。よ。こ。お。り。あ。い。ま。き。葉。み。好。の。海。難。谷。好。偶。く
 ち。よ。さ。い。が。よ。よ。ふ。と。あ。い。ま。あ。い。ま。い。ま。

そらひよ。注あり。おもひつ。大うら。かづら。幾つら。終乃。益
解。か。づら。て。貧乏。橋の口。終う。ひ。み。さ。れ。とな。を。
不食甘。蜜。お。付。ふ。品。れ。て。終。お。は。ハ。奴。僕。豆腐の
ひ。お。は。の。と。と。え。ひ。を。ま。も。乃。最。と。と。さ。ら。か。く。い。
ど。あ。る。ハ。小。中。指。の。ゆ。は。よ。ら。の。意。お。小。喜。よ。こ。い。の。
あ。ら。た。海。が。あ。ら。と。い。ひ。み。の。り。一。終。下。を。ま。い。の
あ。つ。こと。ら。い。は。や。一。た。ら。ん。づ。よ。も。あ。ら。な。志。し。今。ハ
と。う。人。こ。の。世。お。ち。わ。ん。く。い。は。ら。い。お。し。よ。ま。れ。じ。べ。ら。
ま。か。り。月。を。え。る。は。い。く。く。も。と。と。う。を。と。と。う。ま。よ。

石巻を絶つ——根こそやぶる板

